

成長可能性に関する説明資料 イーレックス株式会社



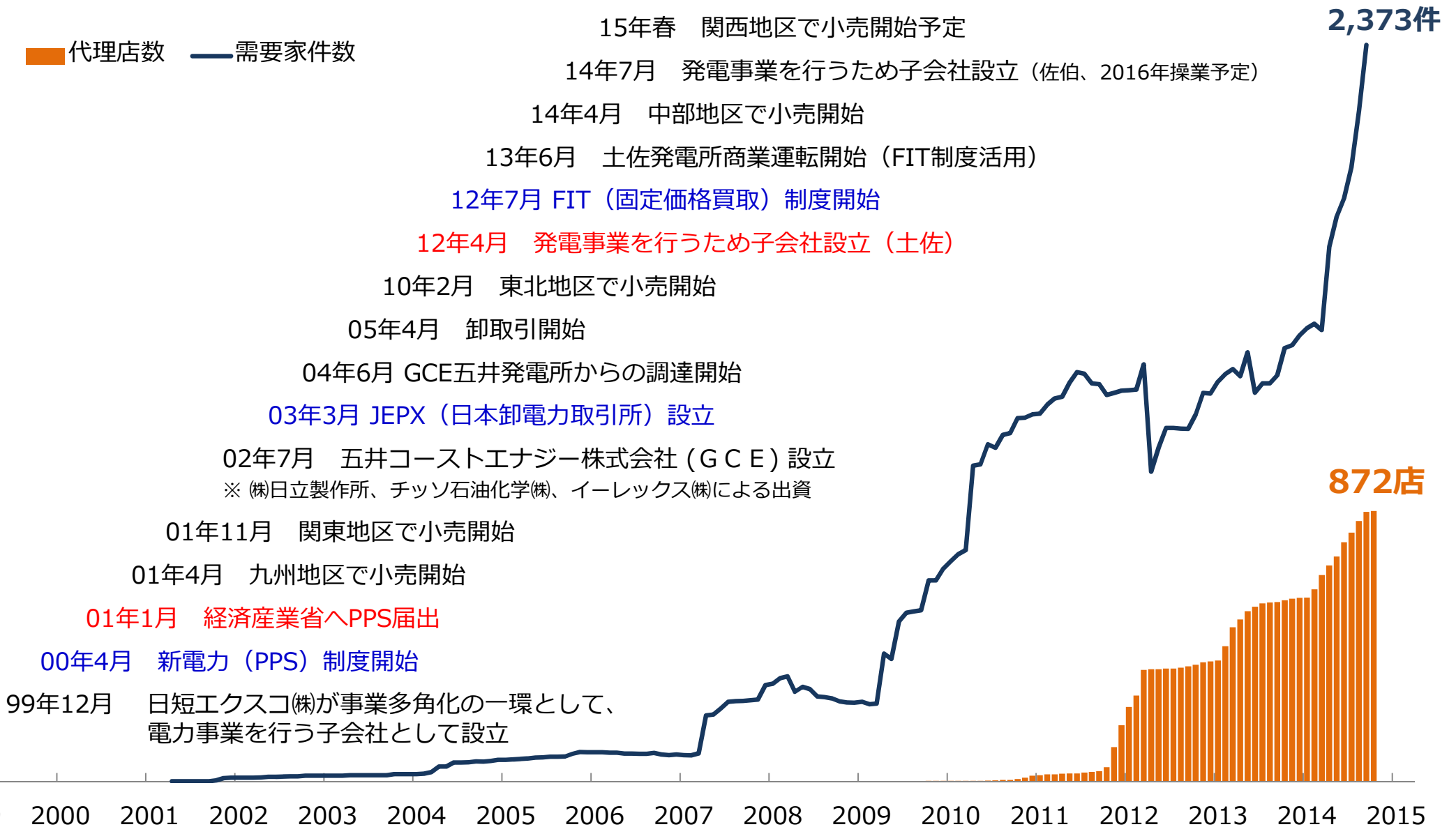
新たな成長局面を迎えたイーレックス

PPSのパイオニアとしての地位を着実に固める

| | | | |
|-----|-----------|-------|----|
| I | 会社概要と市場動向 | ・ ・ ・ | 2 |
| II | 当社の特長 | ・ ・ ・ | 7 |
| III | 成長戦略 | ・ ・ ・ | 17 |
| IV | 業績の推移 | ・ ・ ・ | 26 |

I . 会社概要と市場動向

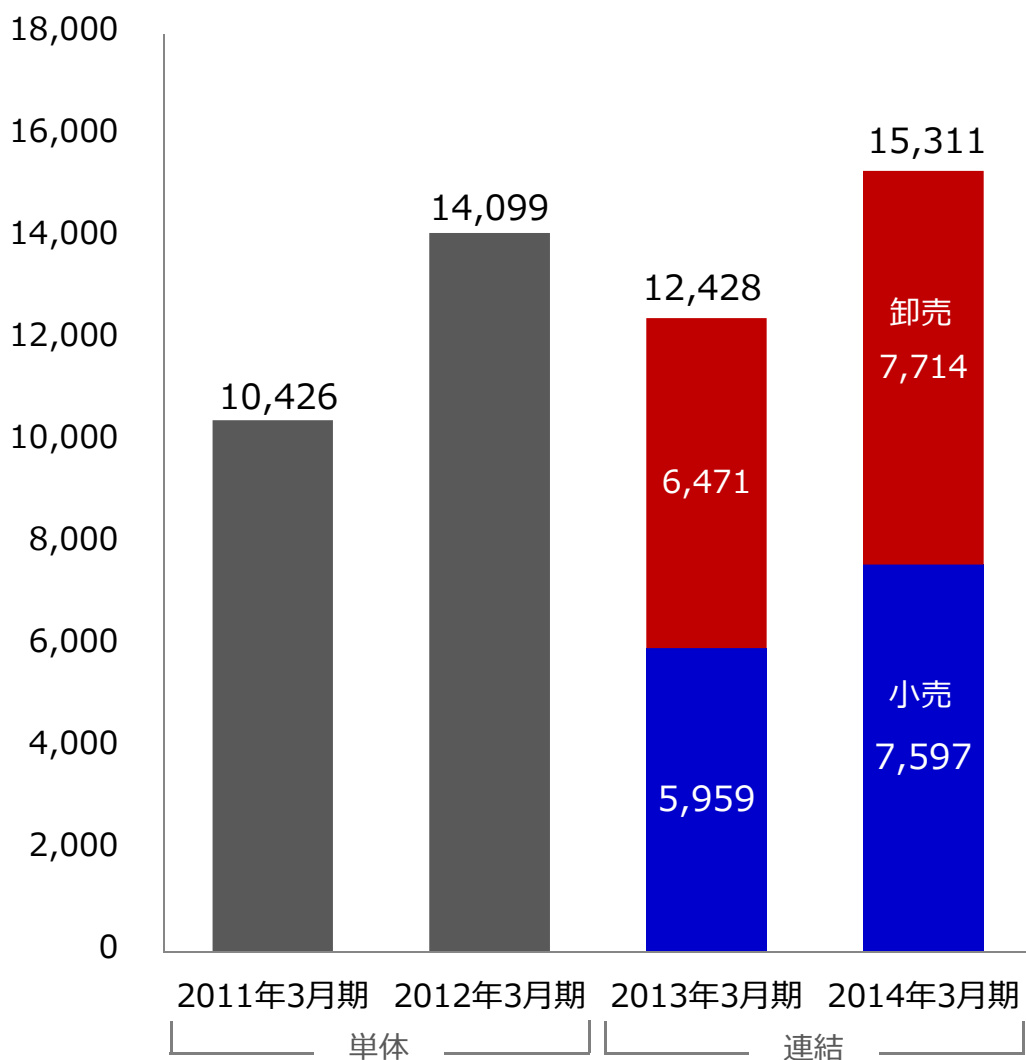
| | |
|-------|--|
| 本社 | 東京都中央区日本橋本石町三丁目3番14号 |
| 事業内容 | 電力自由化の流れの中で、新電力として電力小売を中心として展開 |
| 代表者 | 代表取締役社長 渡邊 博、代表取締役副社長 本名 均 |
| 設立 | 1999年12月 |
| 資本金 | 990百万円（2014年9月30日現在） |
| 連結子会社 | イーレックスニューエナジー株式会社、イーレックスニューエナジー佐伯株式会社 |
| 従業員数 | 連結：44名 / 単体：31名（2014年9月30日現在） |
| 経営理念 | 社員は、絶え間ない挑戦と自らの強みを活かし、企業の発展を促し、社会の生活向上に貢献します |



IRR15%の投資基準を堅守し、高い利益率を実現

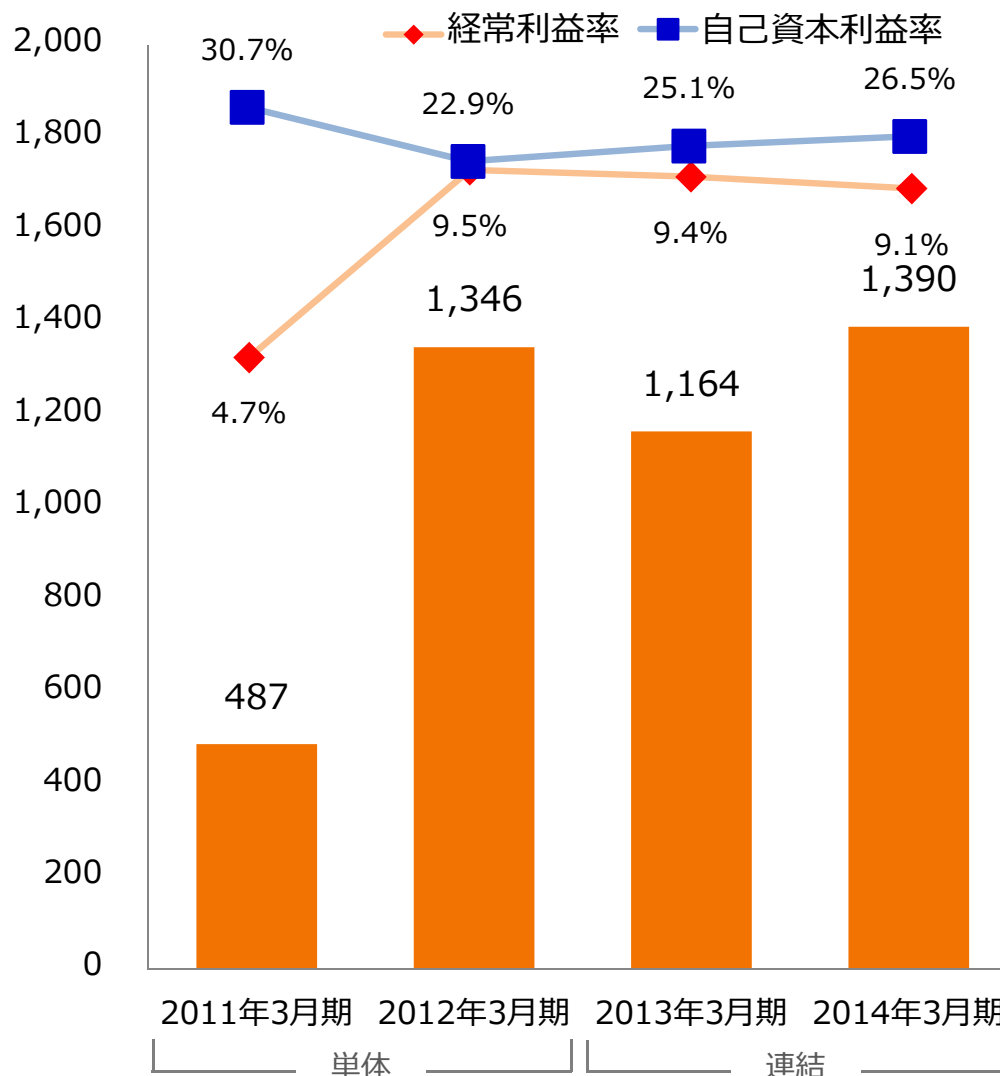
売上高

単位：百万円



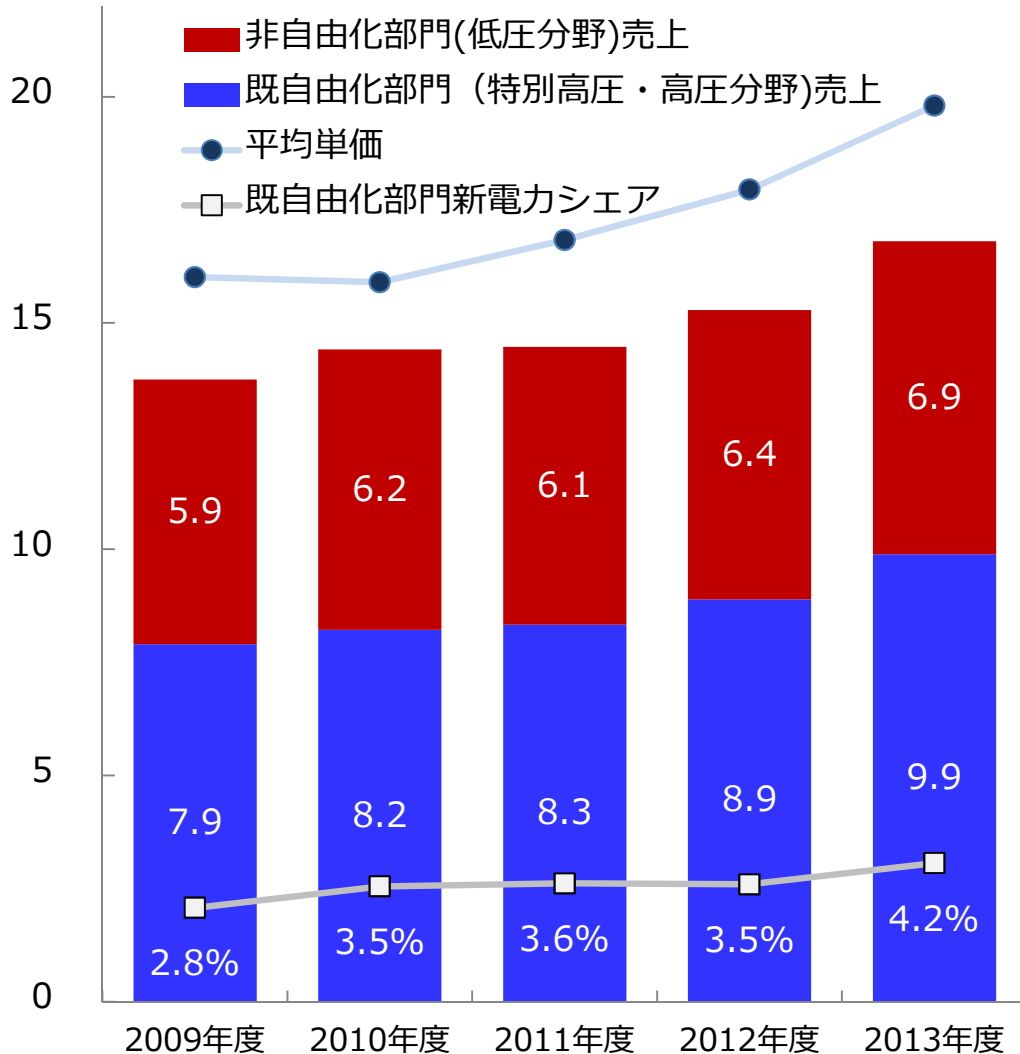
経常利益

単位：百万円



電力市場規模推移 (10電力計)

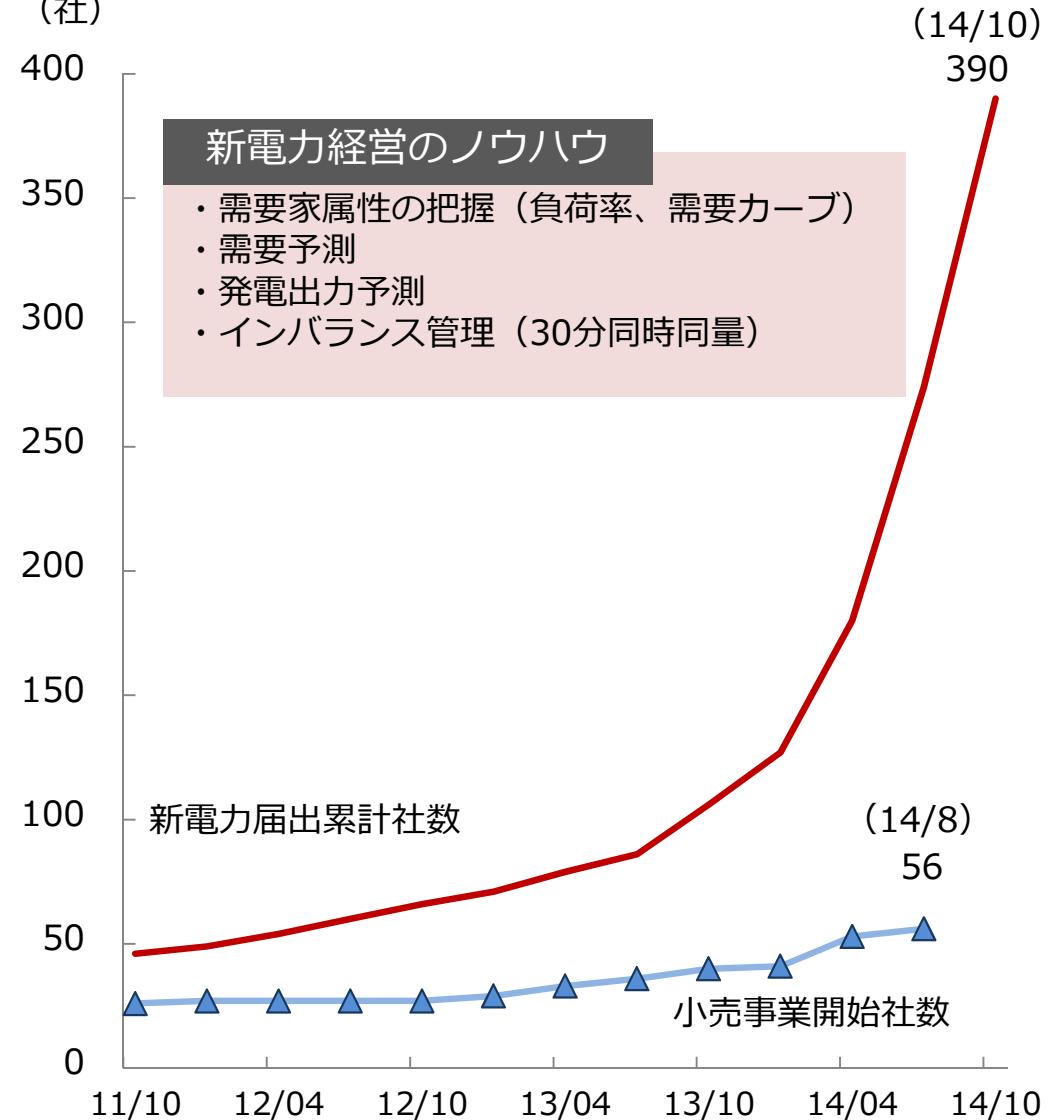
(兆円、¥/kWh)



(出所) 経済産業省資源エネルギー庁「電力調査統計」、電気事業連合会「電力統計情報」

新電力社数の推移

(社)



新電力経営のノウハウ

- ・需要家属性の把握 (負荷率、需要カーブ)
- ・需要予測
- ・発電出力予測
- ・インバランス管理 (30分同時同量)

Ⅱ. 当社の特長



競争力のあるベース電源

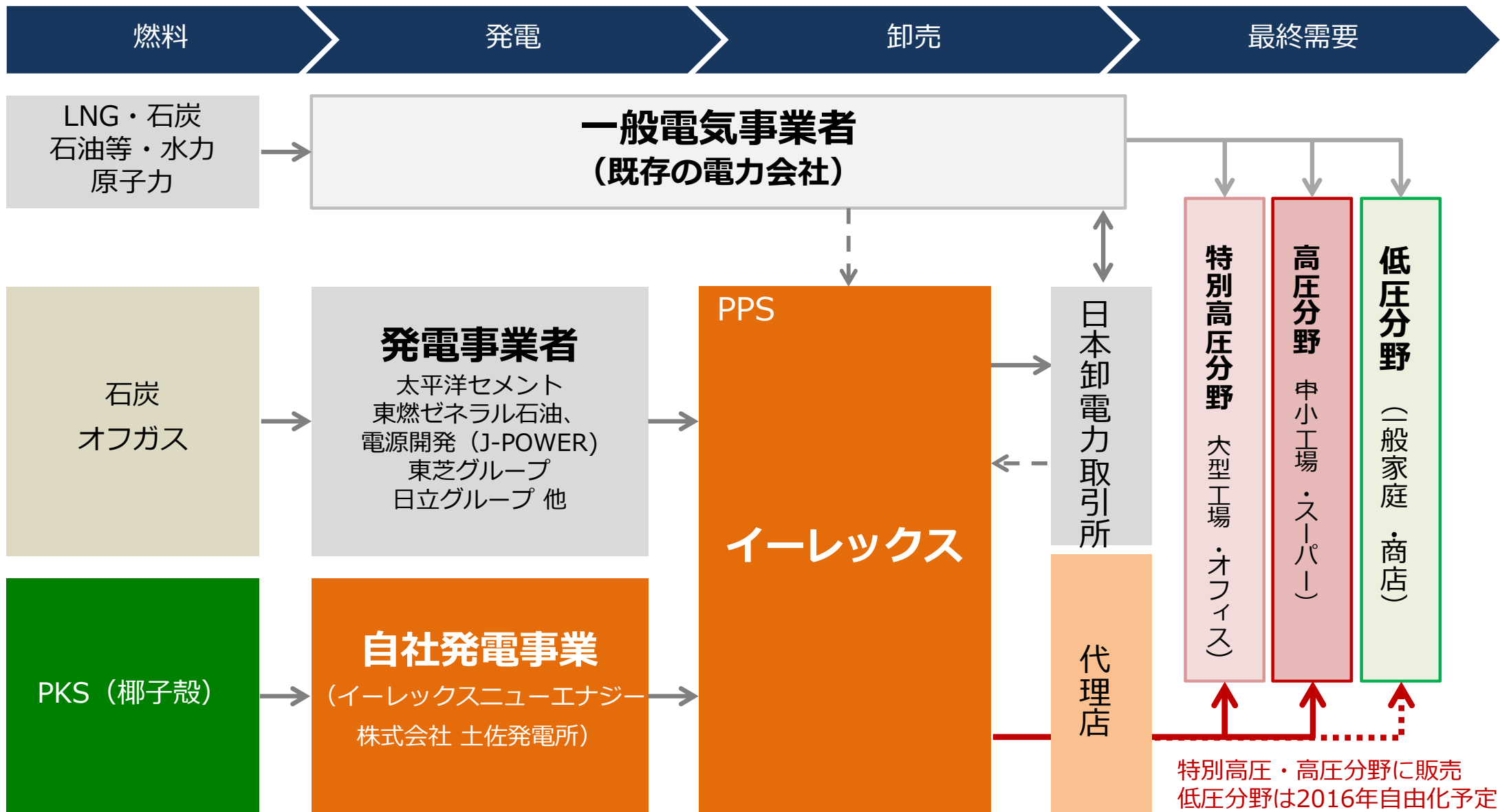


機動的な販売戦略



短資会社由来のディーリングノウハウ

当社を取り巻く電力の流れ



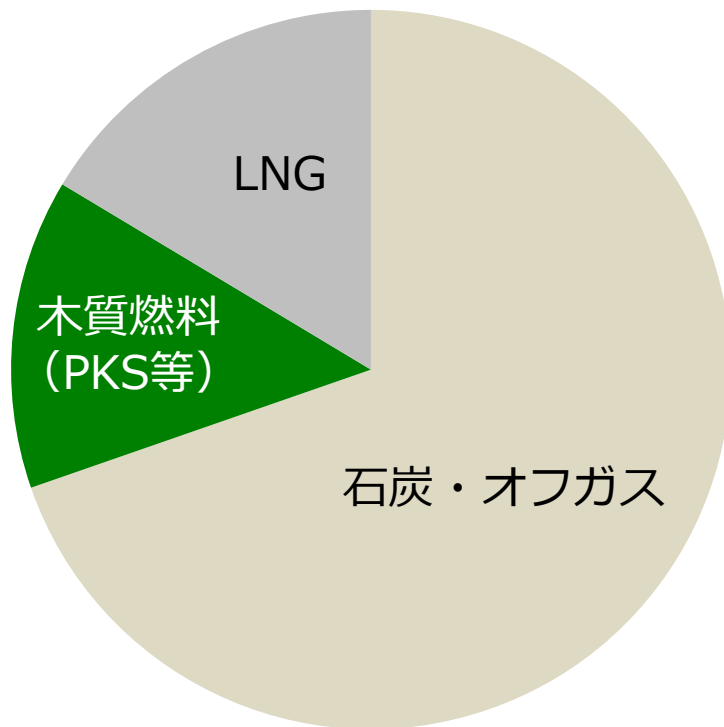
特別高圧・高圧分野に販売
低圧分野は2016年自由化予定

(注1) PPS: Power Producer and Supplier
 (注2) ———▶ ……主要な電力の流れ - - -▶ ……補助的な電力の流れ

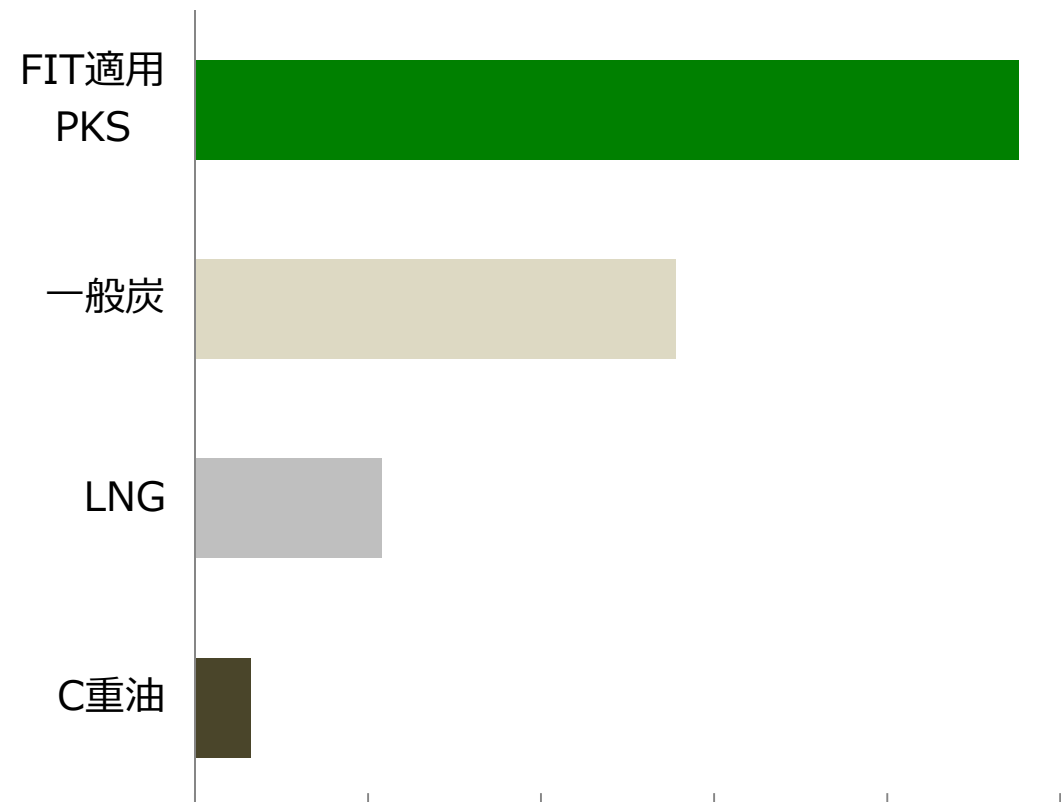
高い収益性を誇るバイオマス発電

- FIT（固定価格買取制度）を活用したバイオマス発電により、高い収益性を実現
- 日本で初めてPKS（パーム椰子殻）を主燃料とした発電を開始、安定操業に成功

電源構成比



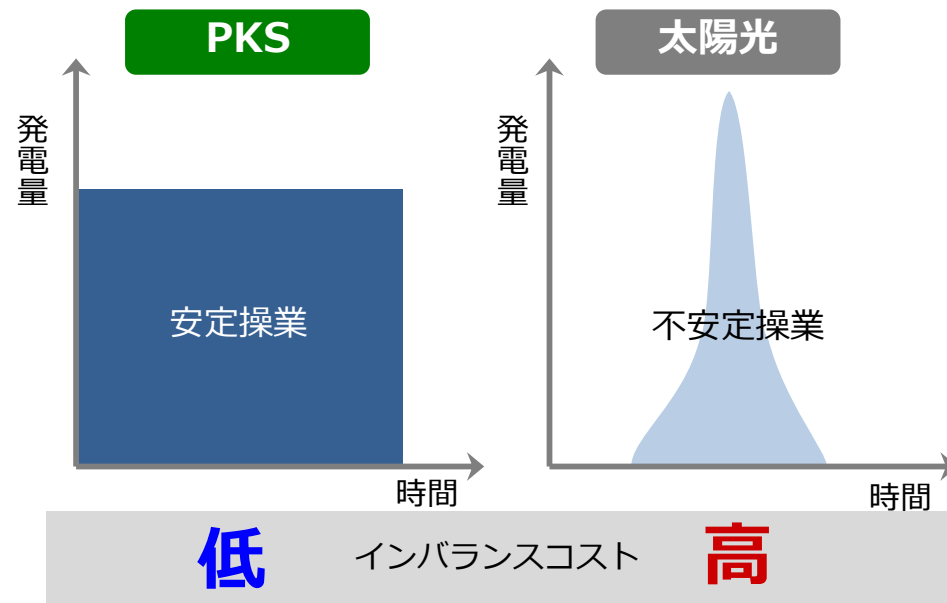
燃料別の粗利（試算）



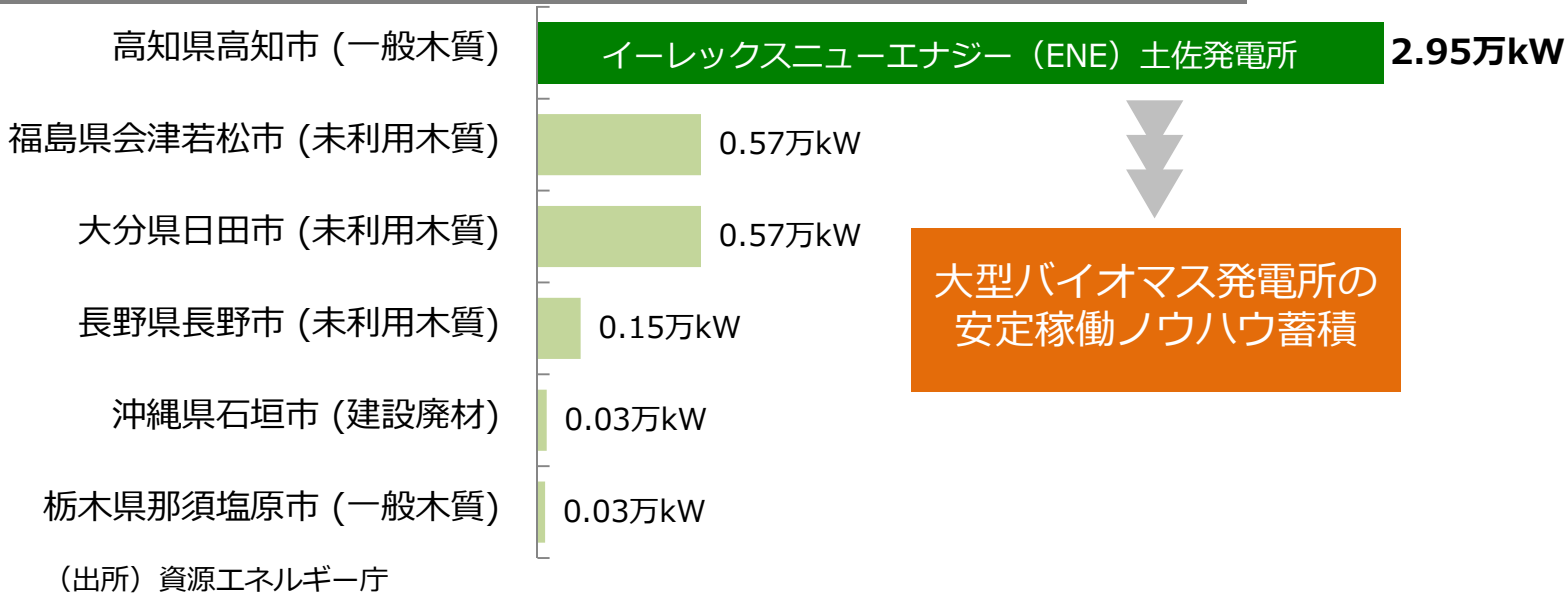
イーレックスニューエナジー（ENE）土佐発電所

| | | | |
|------|-----------|----|--------------|
| 所在地 | 高知県高知市 | 燃料 | PKS(パーム椰子殻) |
| 発電方式 | バイオマス発電方式 | 出力 | 定格出力 2.95万kW |

- 我が国初のPKS発電プラント
- 常に一定の発電量を維持できるため、ベース電源としての優位性を持つ
- 太平洋セメント土佐工場（現在はセメント生産を中止）内に立地
- 土佐工場のインフラや人材（OB社員等）を利用



FIT認定の木質バイオマス発電所一覧（2014年3月現在稼働分）



▲ 土佐発電所外観

PKSの燃料としての性質

- PKSはPalm Kernel Shell（パーム椰子殻）の略
- パーム果実の種から核油を搾油した後の殻
- 殻は硬質であり、重量当たりの熱量が高い（3,500kcal/kg前後）
- 水分率については20%前後と、他のバイオマス燃料に比べて低い
- 問題点は異物の混入 ⇒ PKS置場において、篩（ふるい）による異物除去を実施

▼ PKS



需給環境

供給（1,000万トン超/年が続く見通し）

需要（約100→300万トン/年の見通し）

輸出国



インドネシア



マレーシア

輸入国



日本



韓国



シンガポール

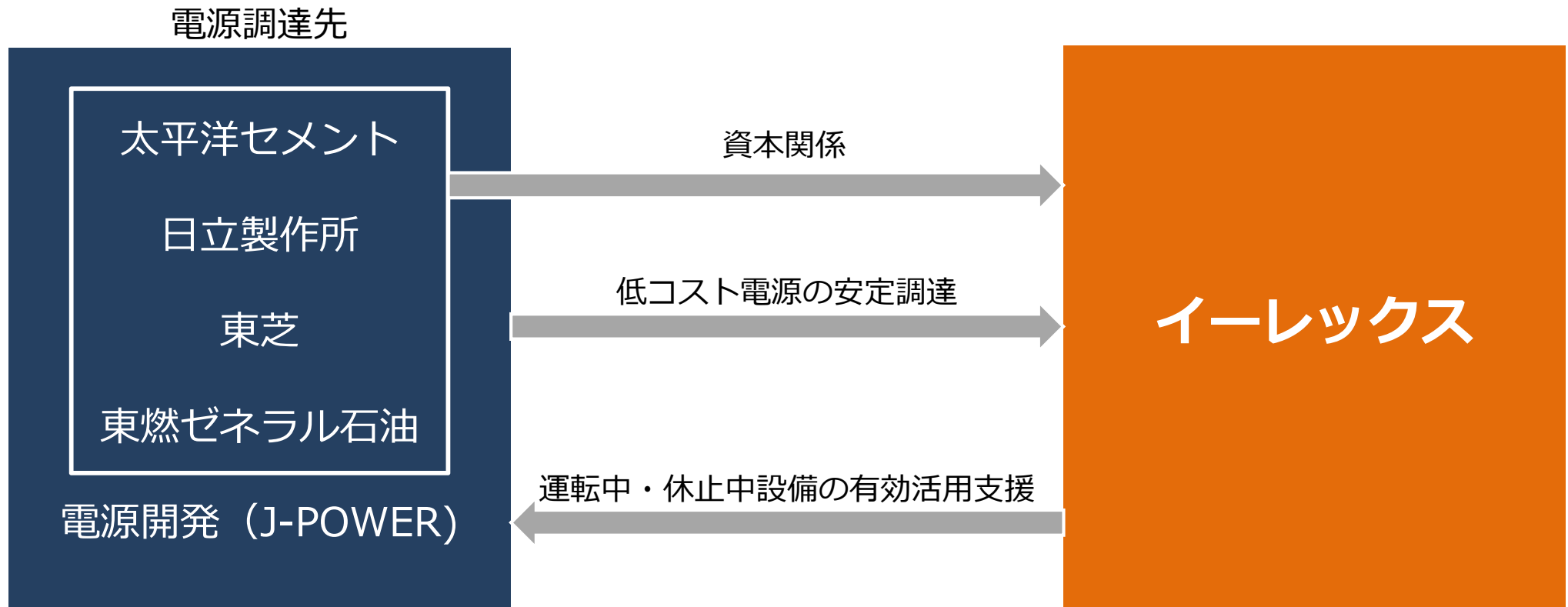


タイ

需要は増えるものの、供給超過は続く見通し

低コストの購入電源

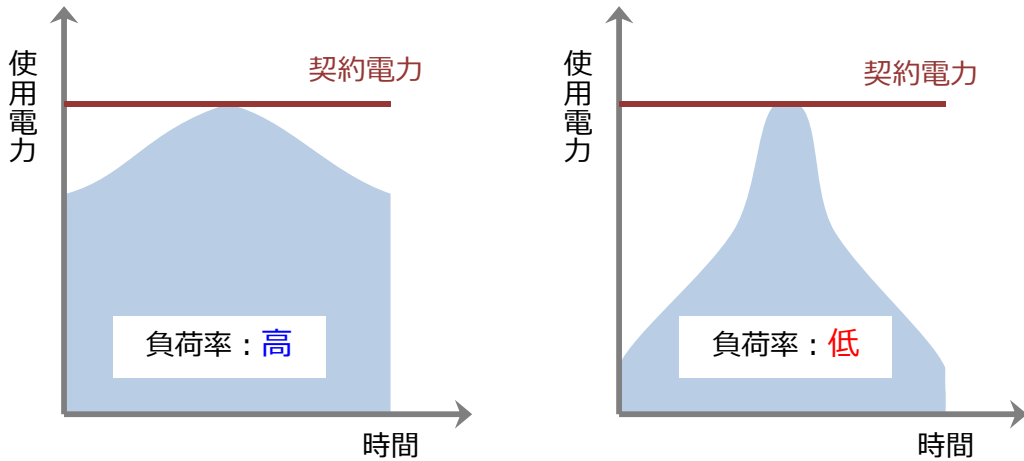
- オフガスや石炭火力など低コストの安価な電源を購入
- 資本関係を構築することで、Win-Winの関係を構築



独立系ならではの自由度の高い販売戦略

- 徹底した収益性重視の観点から採算の高い（＝負荷率の低い）民間小規模顧客を優先
- 他の新電力よりも高く、既存の電力会社よりも低い価格で販売

負荷率と電気料金

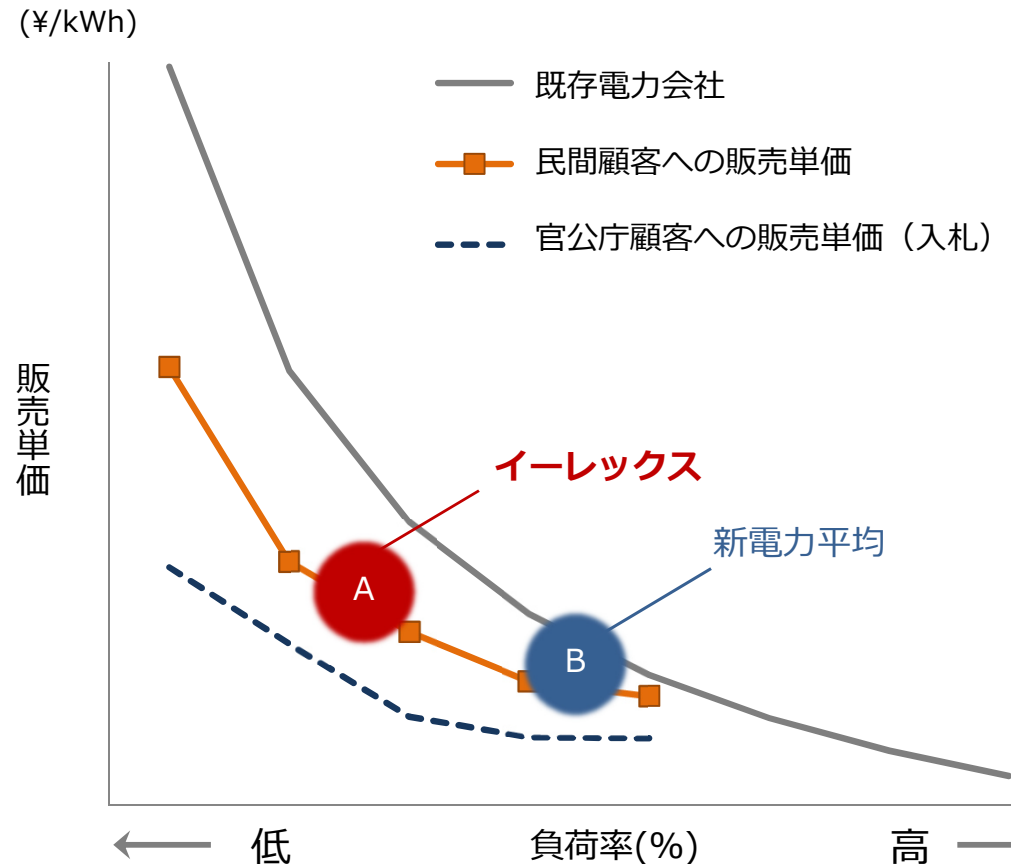


| | |
|--------------------------------------|--------|
| 契約電力 | 基本料金 |
| 1kW | 2,000円 |
| 使用量 | 従量料金 |
| 400kWh | 4,000円 |
| 販売単価 | |
| $(2,000+4,000)/400 = 15\text{円/kWh}$ | |

| | |
|--------------------------------------|--------|
| 契約電力 | 基本料金 |
| 1kW | 2,000円 |
| 使用量 | 従量料金 |
| 200kWh | 2,000円 |
| 販売単価 | |
| $(2,000+2,000)/200 = 20\text{円/kWh}$ | |

(注) 負荷率 = 年間使用電力量 ÷ 契約電力 × 24h × 365日

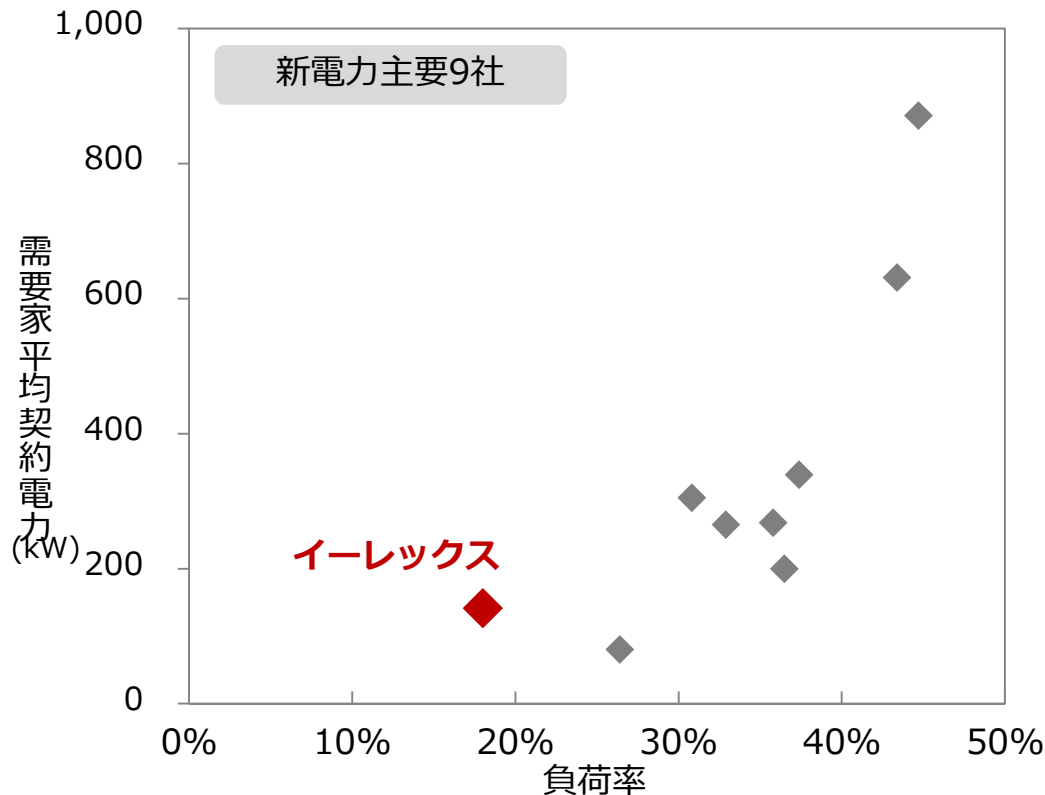
負荷率と販売単価



収益性を重視した代理店制度による販売網

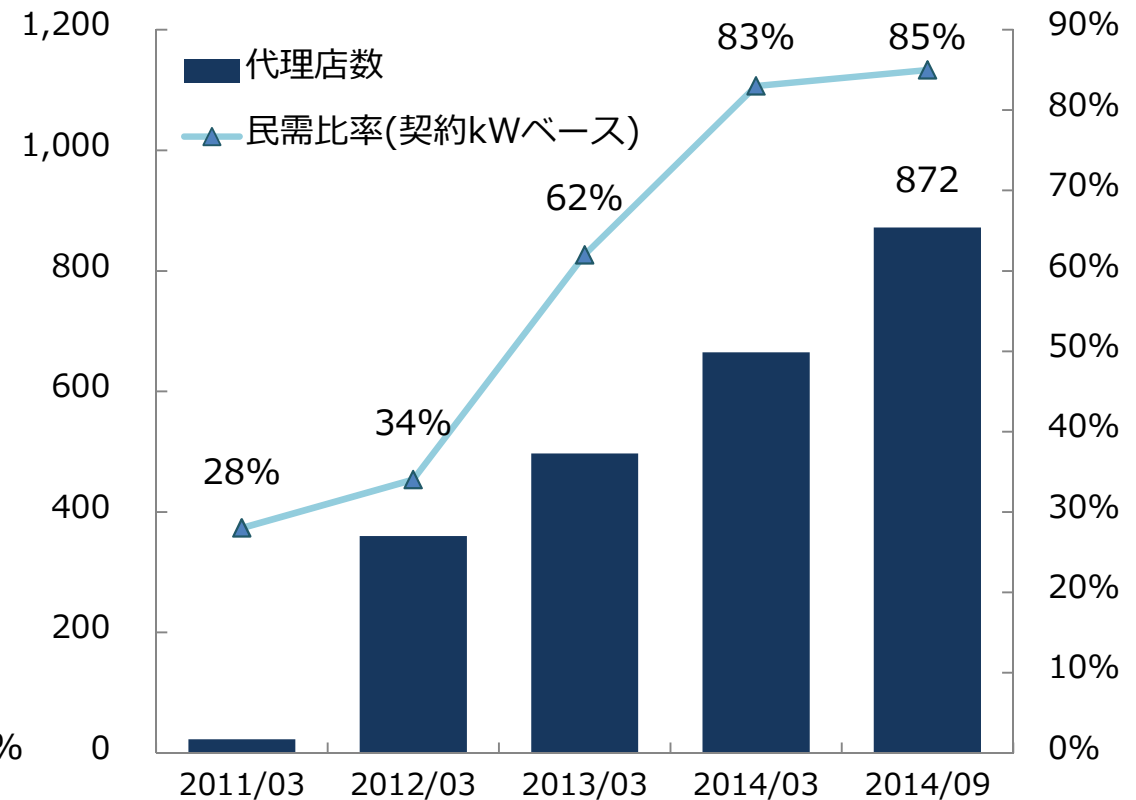
- 負荷率の低い顧客は小規模であるため、代理店制度により販売網を拡充
- 電気主任技術者の活用により、顧客の信頼獲得
- 官需から民需へ販売戦略をシフト

負荷率と顧客規模



(出所) 富士経済 (2013/10)、当社集計

代理店数と民需比率の推移



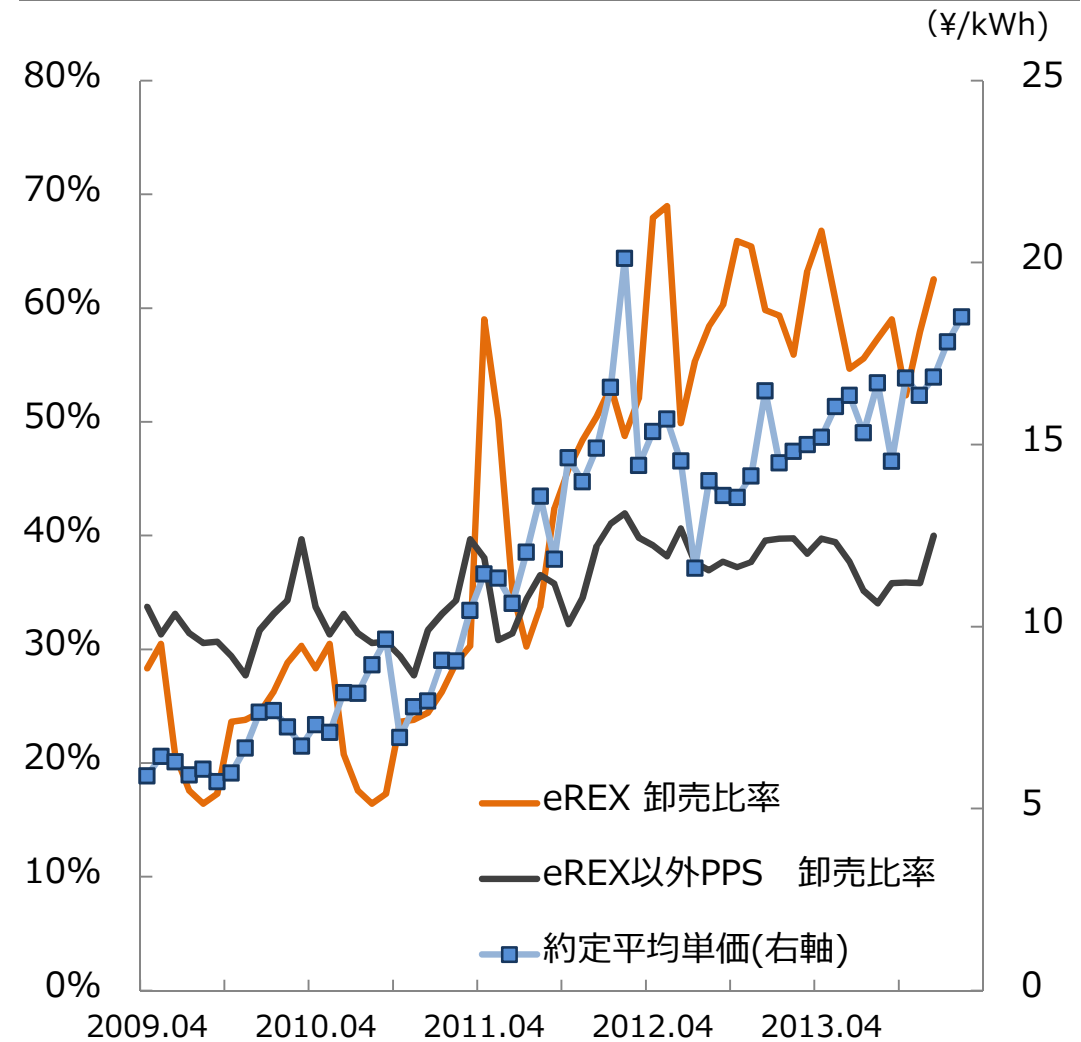
(出所) 当社集計

日本卸売取引所の有効活用による利益の極大化

需給調整能力






- 当社は安定的ベース電源を保有していることで、弾力的な運用と利益の最大化が可能
- 他の新電力（PPS）の多くは安定的ベース電源を持たず、供給不足を取引所からの購入に依存
- 当社は価格に応じて、小売と卸売の比率を変化させてきた(右グラフ参照)
- 全面自由化に向けて「1時間前市場」の創設が検討されており、事業機会の増大に寄与

取引所電力価格と卸売比率の推移



(出所) 日本卸電力取引所、資源エネルギー庁

Ⅲ. 成長戦略

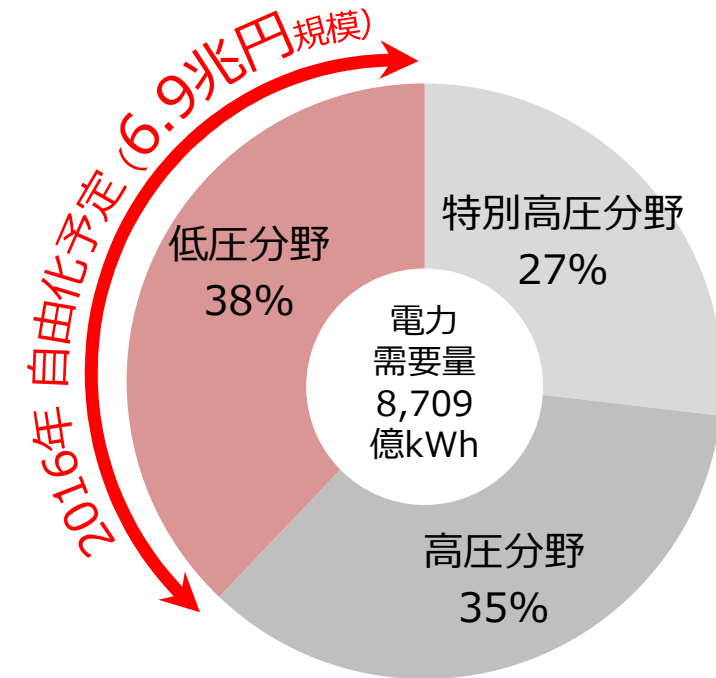
-  **低コストのベース電源を増量**
-  **バイオマス発電所の建設**
-  **PKSの安定調達**
-  **代理店営業による部分供給顧客の獲得**
-  **エリア拡大による新規顧客の獲得**



| 特別高圧 | 高圧 | 低圧 |
|-----------|-----------|----------------------------|
| ○ 販売可能 | ○ 販売可能 | ✕ 現在販売不可 (2016年4月自由化予定) |
| | | |
| 大型工場・オフィス | 中小工場・スーパー | 一般家庭・商店 |

| 受電電圧 | | |
|-----------|--------------|----------|
| 20,000V以上 | 6,000V以上 | 100~200V |
| 需要規模 | | |
| 2,000kW以上 | 50kW~2,000kW | 50kW未満 |

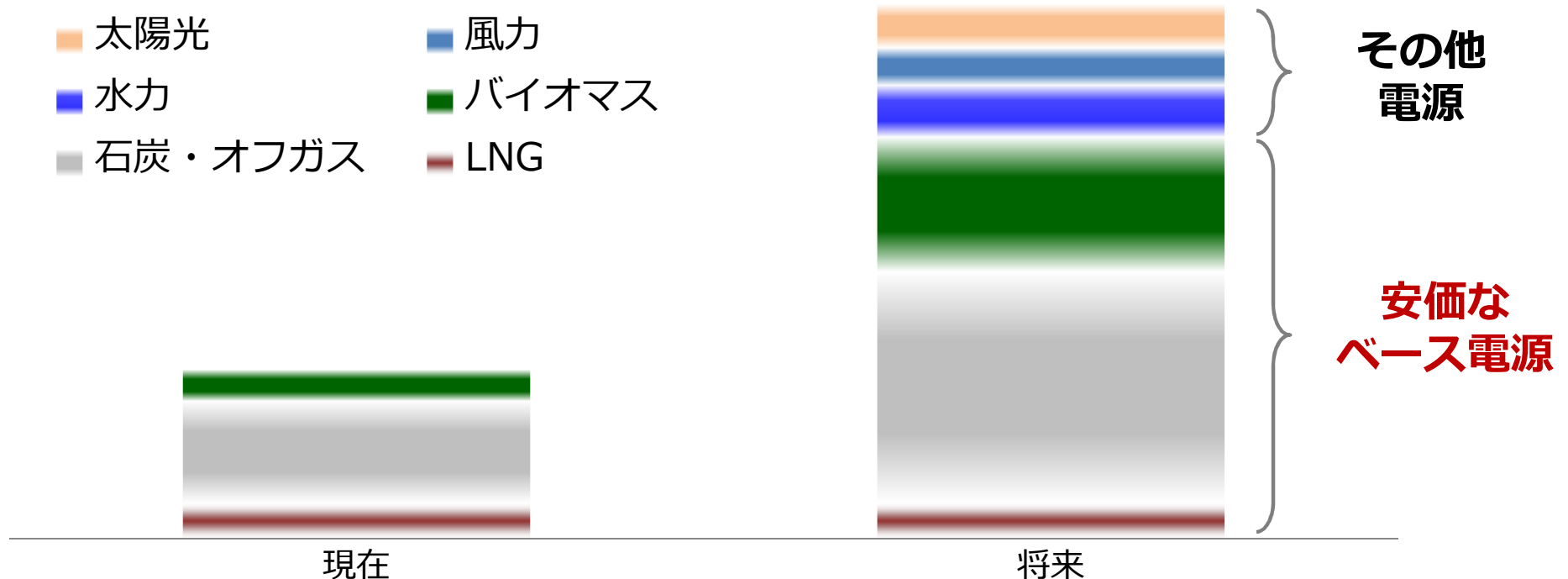
自由化の範囲



⚡ 低コストのベース電源を増量

- バイオマス発電所の新設により、安定的な自社ベース電源を増量する計画
- 他社からの電力購入も増加させる計画
- FIT制度によるバイオマス燃料、低コストの石炭火力を主燃料とする電力を購入する計画

電源調達計画イメージ



⚡ バイオマス発電所の新設

- 土佐に続き、大分県佐伯にPKSを燃料とするバイオマス発電所を建設中
- 近隣の佐伯市女島地区に我が国初のPKSセンターを設置予定
- その後も同様のバイオマス発電所への投資を継続予定。IRR15%以上を計画

佐伯プロジェクト概要

イーレックスニューエナジー佐伯(株)

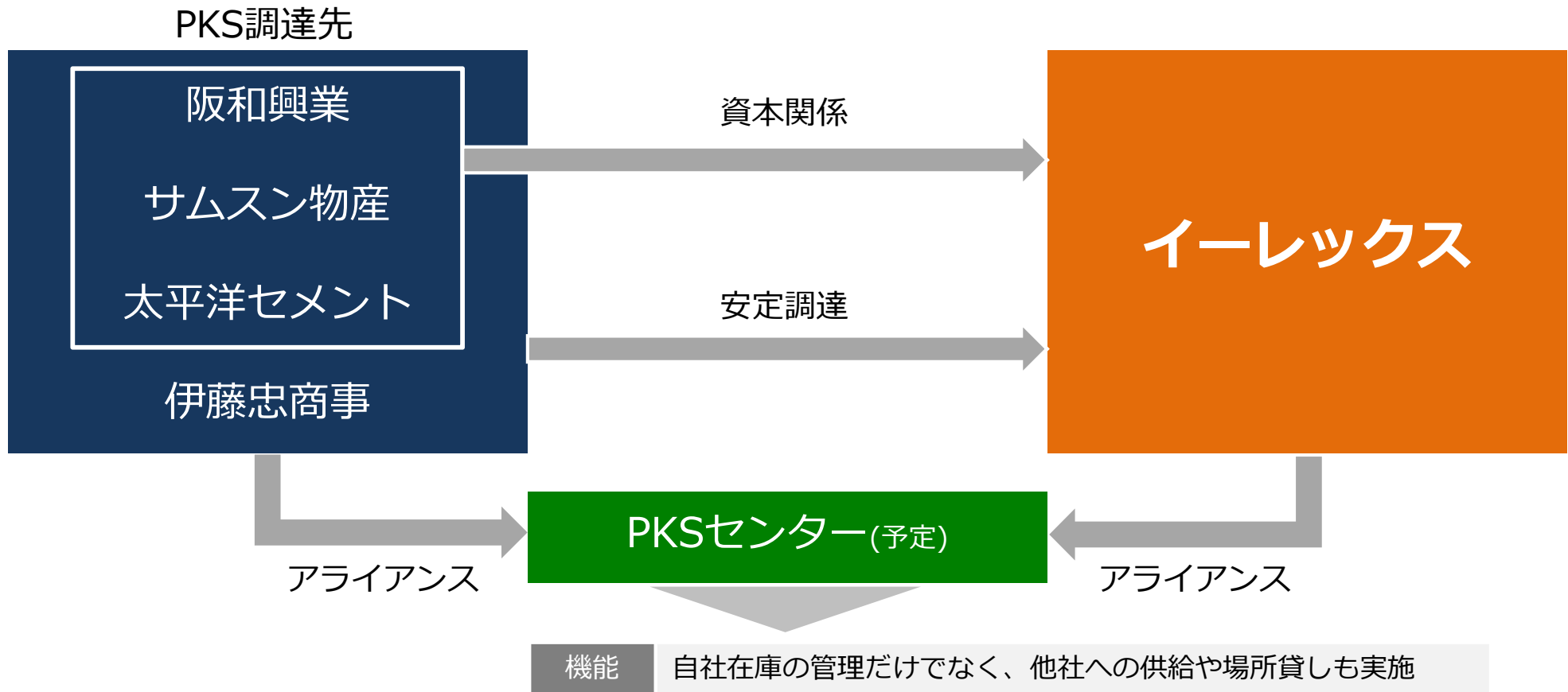
| | | | |
|------|-----------|-----|--------------|
| 所在地 | 大分県佐伯市 | 燃料 | PKS(パーム椰子殻) |
| 発電方式 | バイオマス発電方式 | 出力 | 定格出力5万kW(予定) |
| 運転開始 | 2016年秋 | 投資額 | 167億円 |

- 太平洋セメント大分工場佐伯プラント（現在はセメント生産を中止）内に立地
- 循環流動層タイプのバイオマス発電設備（ENE土佐と同タイプ）を新設
- ENE土佐の稼働で獲得したPKS発電の運転技術と燃料調達のノウハウを継承
- 佐伯工場のインフラ（受変電設備や冷却ライン等）を利用可
- 東芝グループ（20%出資）、東燃ゼネラル石油（10%出資）との提携強化
- PKSセンターを活用した燃料調達により、土佐、佐伯の両発電所の安定操業を維持



⚡ PKSの安定調達

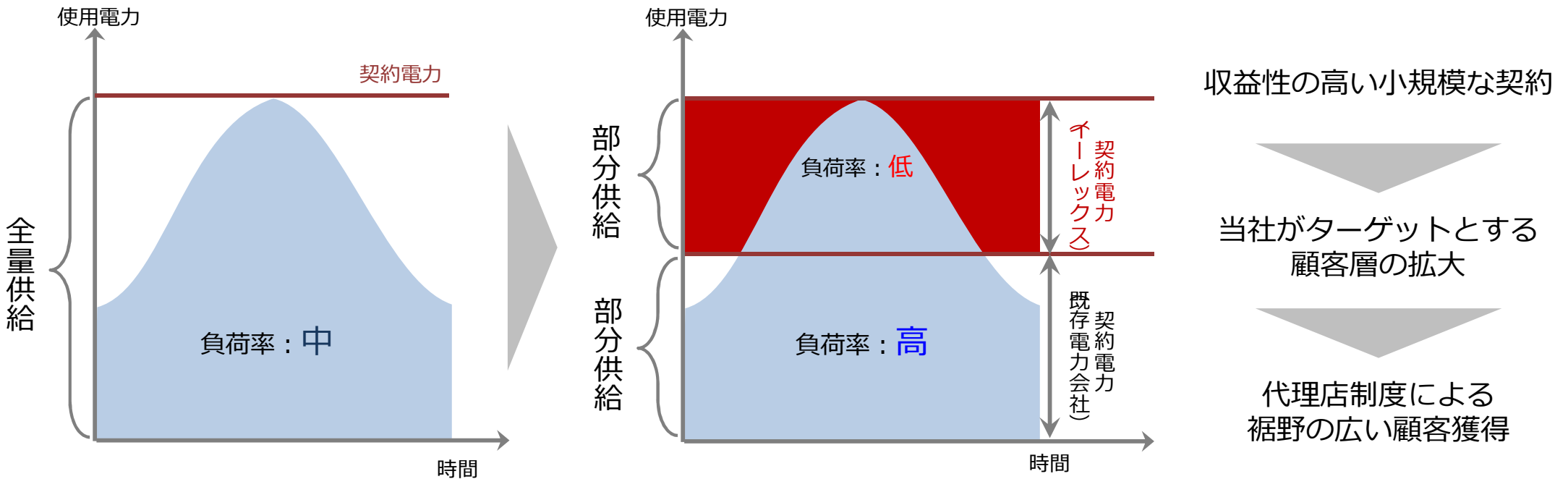
- 阪和興業、サムスン物産、太平洋セメントとの資本関係強化
- 我が国初のPKSセンターを設置予定
- PKSの安定調達により、土佐、佐伯の両発電所の安定操業を維持



⚡ 代理店営業による部分供給顧客の獲得

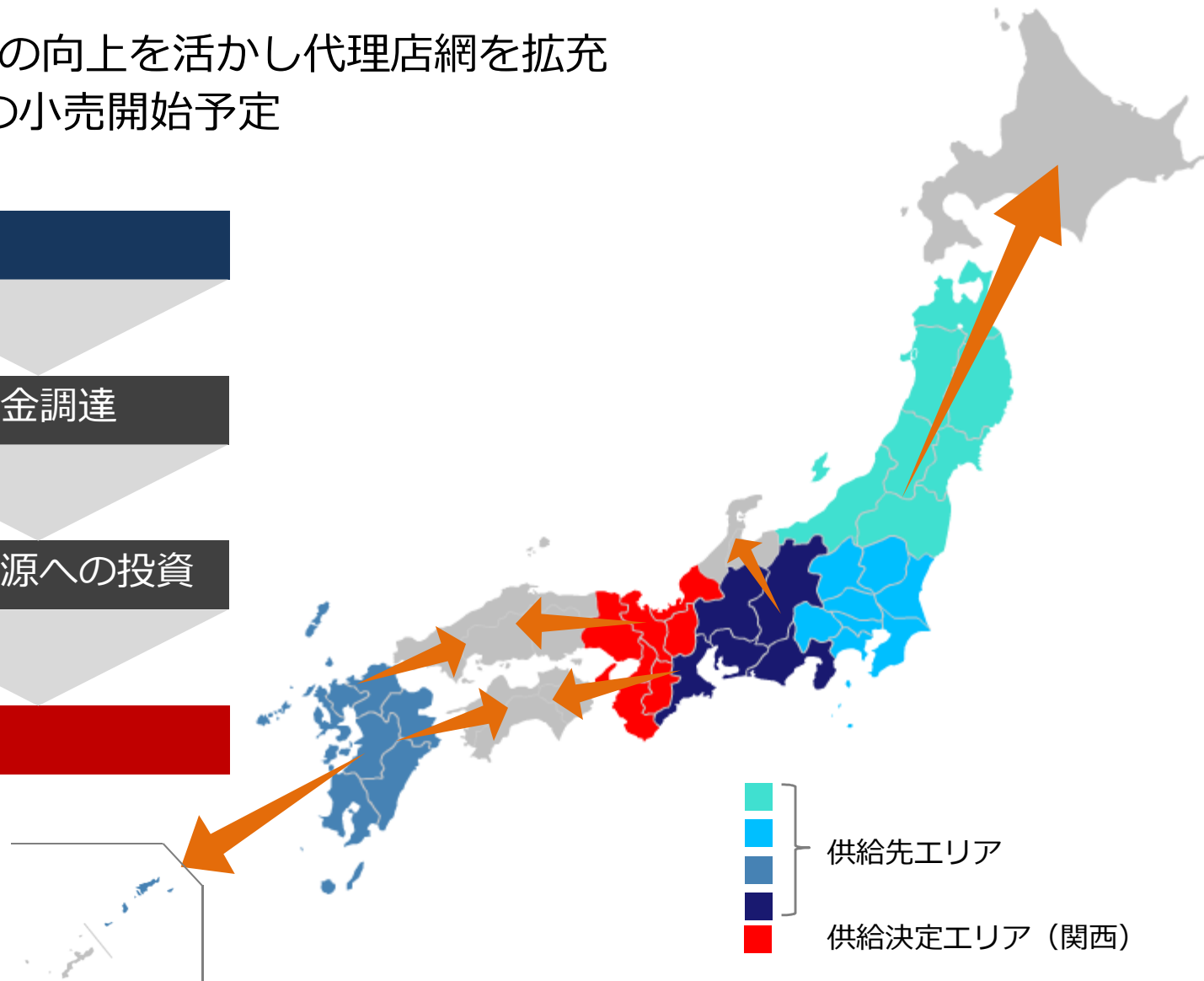
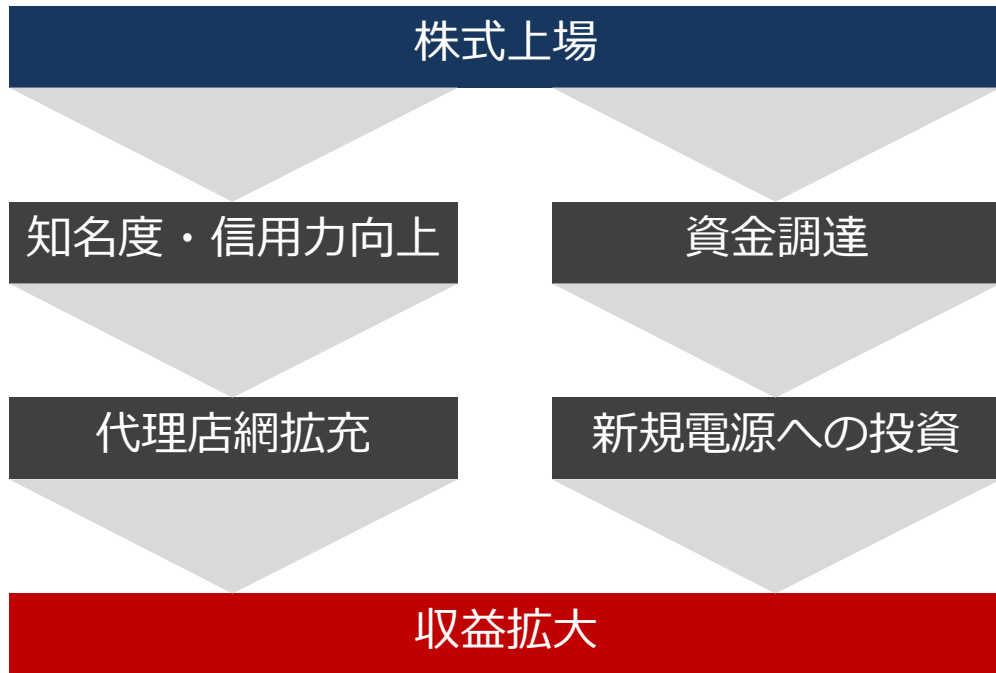
- 部分供給により収益性の高い（負荷率の低い）契約が可能に
- 部分供給による市場の拡大を機会と捉え、代理店営業を強化

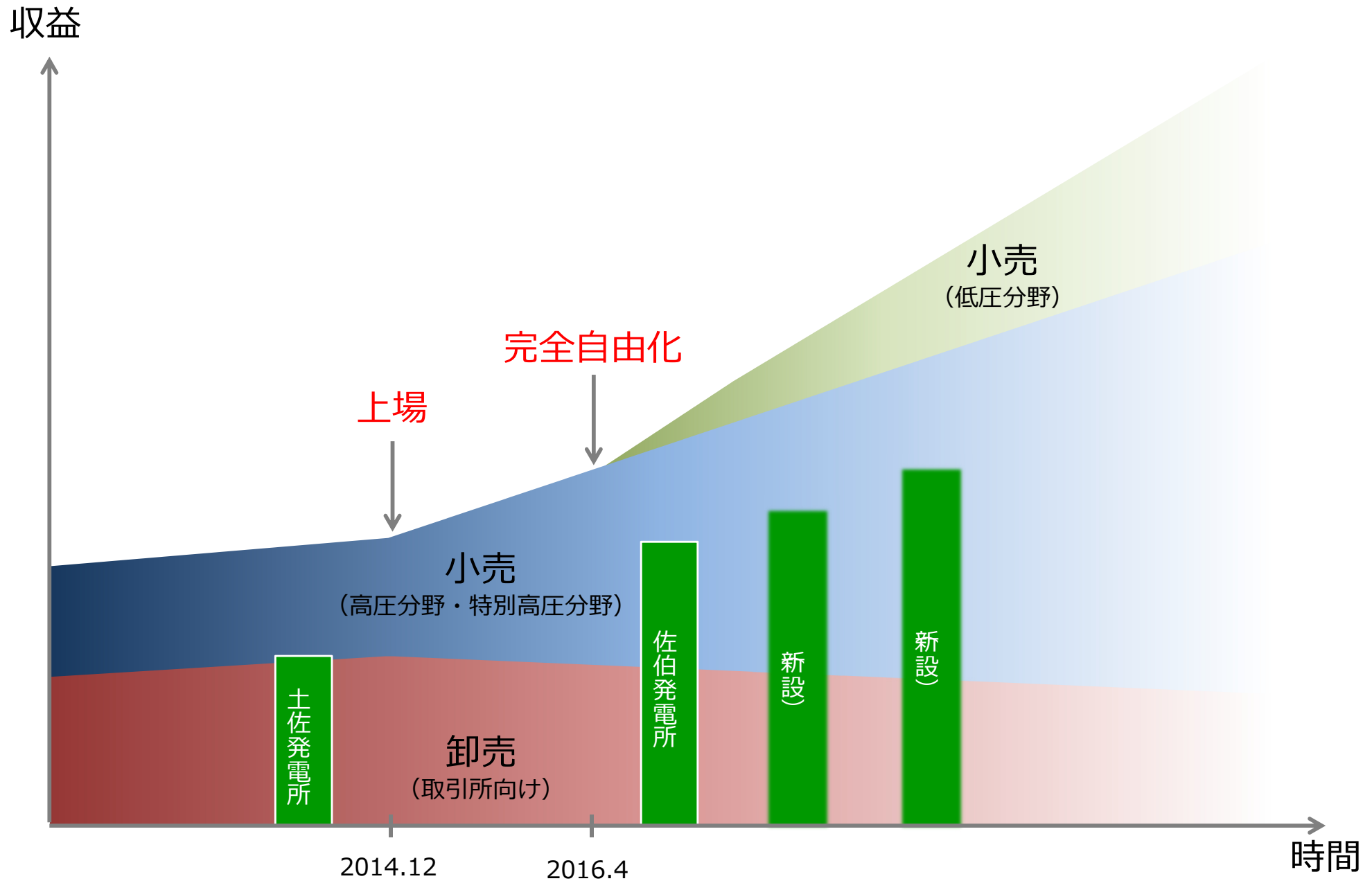
部分供給の仕組み



⚡ エリア拡大による新規顧客の獲得

- 上場による知名度・信用力の向上を活かし代理店網を拡充
- 2015年春には関西地区での小売開始予定





IV.業績の推移

(単位：百万円、下段は構成比)

| | 2013年3月期 | 2014年3月期 | | 2015年3月期予想 | | 2015年3月期 第2四半期累計 |
|-------|--------------------|--------------------|--------|--------------------|--------|---------------------|
| | | | 前年比 | | 前年比 | |
| 売上高 | 12,428 (100.0%) | 15,311 (100.0%) | +20.3% | 16,898 (100.0%) | +10.4% | 7,762 (100.0%) |
| 電力小売 | 5,957 (47.9%) | 7,597 (49.6%) | +27.5% | - | - | 4,940 (63.6%) |
| 電力卸売 | 6,470 (52.1%) | 7,713 (50.4%) | +19.2% | - | - | 2,281 (36.4%) |
| 売上総利益 | 2,147 (16.9%) | 2,684 (17.5%) | +25.0% | - | - | 1,180 (15.2%) |
| 営業利益 | 1,159 (9.1%) | 1,407 (9.2%) | +21.4% | 1,530 (9.1%) | +8.7% | 753 (9.7%) |
| 経常利益 | 1,164 (9.1%) | 1,390 (9.1%) | +19.4% | 1,302 (7.7%) | ▲6.3% | 734 (9.5%) |
| 当期純利益 | 679 (5.3%) | 815 (5.3%) | +19.9% | 916 (5.4%) | +12.4% | 513 (6.6%) |

(単位：百万円、下段は構成比)

| | | 2013年3月期 | 2014年3月期 | | 2015年3月期 第2四半期末 |
|----------|------|-------------------|-------------------|-------|--------------------|
| | | | | 前年増減額 | |
| 流動資産 | 流動資産 | 4,390 (78.6%) | 5,272 (53.5%) | 881 | 5,351 (47.8%) |
| | 固定資産 | 1,195 (21.4%) | 4,588 (46.5%) | 3,393 | 5,845 (52.2%) |
| 資産合計 | | 5,586 (100.0%) | 9,861 (100.0%) | 4,275 | 11,196 (100.0%) |
| 流動負債 | 流動負債 | 1,470 (26.3%) | 2,606 (26.4%) | 1,135 | 3,005 (26.8%) |
| | 固定負債 | 1,409 (25.2%) | 3,799 (38.5%) | 2,390 | 3,575 (31.9%) |
| 負債合計 | | 2,879 (51.5%) | 6,405 (65.0%) | 3,526 | 6,580 (58.8%) |
| 純資産合計 | | 2,706 (48.5%) | 3,455 (35.0%) | 748 | 4,615 (41.2%) |
| 負債・純資産合計 | | 5,586 (100.0%) | 9,861 (100.0%) | 4,275 | 11,196 (100.0%) |

(単位：百万円)

| | 2013年3月期 | 2014年3月期 | 2015年3月期 第2四半期累計 |
|-----------------|----------|----------|---------------------|
| 営業キャッシュ・フロー | 584 | 845 | 846 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,164 | 1,389 | 734 |
| 減価償却費 | 14 | 486 | 252 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | 104 | ▲407 | 188 |
| たな卸資産の増減額 | - | ▲183 | ▲50 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | ▲79 | 299 | 31 |
| 法人税等の支払額 | ▲775 | ▲421 | ▲386 |
| 投資キャッシュ・フロー | ▲1,050 | ▲3,280 | ▲752 |
| 有形固定資産の取得 | ▲541 | ▲2,997 | ▲749 |
| 財務キャッシュ・フロー | 1,224 | 1,848 | 408 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,309 | 3,068 | 2,481 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,068 | 2,481 | 2,983 |